

アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。

パヴェーゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

『タイガー・ウッズと松山』

世界ランキング6位の松山英樹選手がヒーロー・ワールドチャレンジで、大きな優勝を手にした。この大会は、タイガー・ウッズがトーナメントホストを引き受けている大会で、世界の名だたるプレーヤーが名を連ねる。ローリー・マキロイ、ジェイソン・デイはスケジュールが合わず不参加であったが、世界ナンバーワンの実力を競うには、絶好のトーナメントとなった。この大会は、タイガー・ウッズの1年3カ月ぶりの復帰もあって、ゴルフ大会関係者、世界中のゴルフ関連メディアの注目を集めることとなった。

3日目で、2位と7打差をつけた松山は、ぶつちぎりの首位となり、4日目は昨年の全英オープンのチャンピオン・ヘンリック・ステンソンと同じ組となった。

開催地は中米のバハマ。カリブ海の風が時に、突風として球を左右にぶらし、その影響でグリーンも徐々に乾いて固くなり、本来であれば、最終日にスコアの伸ばし合いとなるところであるが、松山とステンソンのマッチプレー状態となった。スタート当初、7打ひらいていたスコアは、最終ホールでわずか1打差となり、ステンソンの強烈な追撃を受けたわけであるが、松山はほとんど動じることはなかったように見えた。

一方で、久々にマスコミの目をくぎ付けにしたのは、もちろんタイガー・ウッズであった。左足の故障と腰の故障、リハビリを終えた彼の努力とカムバックには、ほとんどの選手が警戒心とともに、感動すら覚えたのではなからうか。そして、その偉大な存在に、改めてゴルフプレーヤーとしての誇りを覚え、自信とプライドを松山も学んだのではないだろうか。

人生というのは、ずっと順風満帆に行くことはない。肉体的なトラブルやら、金銭的な悩みやら、人間関係の問題やら様々な逆風にさらされるのが人生である。その大きなトラブルから這い上がってきたウッズと、人生を走り出したばかりの松山とのコントラストが、日本のプロゴルファーにとってもゴルフ人生の教示となったであろう。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。